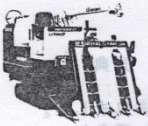


(コンバイン)



我が郷土を語る (その17) 中尾 佐之吉

農業機械化の歩み

-----「千歯(千把)」から「コンバイン」への道-----

1) 郷土を驚かす「石油発動機」の快音

田中野田で農業機械化の先駆者たる荣誉を受けられるべきは、和気岩夫(1894-1978)さん(和気督祐さんのご尊父)である。

私がこどもの頃、大正の末頃である。わが家の裏の岩夫さんの田んぼ(その時は、い草が植えられていた。現在は宅地である)で、石油発動機のケタタマシ爆発音と共にバーチカルポンプから水が田んぼへどンドン入っていくのである。私が始めて見る機械だ。ビックリである。

それまで水かきは、足踏みの木製水車だったわけで、これが機械に肩替わりすることになった。また、この石油発動機を「たいこに爪をうった」回転式脱穀機にベルトで連結すると、稲こぎ(脱穀)も機械化されることになる。

当時、稲こぎは、「千歯(せんば)」に稲を一握りずつ当てて引っ張り落とすやり方で一反(1,000㎡)分の稲をこぐのに一週間くらいもかかったのが、数時間で済むようになるのだから、機械化は省力と能率向上に大変役にたったわけである。そして、さらに扱摺りも機械化が可能になった。(注1)

岩夫さんの発動機の導入は、この地区の農家の人に大きな刺激を与えたに違いない。わが家でも、また近隣の家でも、それから1-2年後には石油発動機と関連機器を持つようになった。

機械化は、何もかもいいことづくめというわけではない。機械はお金が大変かかるのである。当時の石油発動機はアメリカ製で1馬力半から2馬力程度のものであったが、エンジン1台が200円位であったと聞いている。当時のお米の値段は平均1俵12円くらいであったから、今の米価で換算すると30万円くらいになる。便利な機械であるが、その頃の経済事情からすると高価なものであったといえる。

2) 小型耕うん機

いままでは、収穫から調製までの機械であった。耕うん機は、作付け前の耕起・整地の機械である。土地を耕す作業は大変な力(力)を要するので、機械化には強力で、しかも、日本農業に適する小型のエンジンを必要とした。やがて実用化された耕うん機が、日本で最初に導入されたのは、岡山県の興除村ではなかったかと思う。

田中野田で、この小型耕うん機が使われるようになったのは昭和12年頃で、和気督祐さんのお家(うち)のように聞いている。

3) 動力用モーターと「い製品」織機

明治時代から戦前まで、この地方は「い草」の産地であった。また、農家の主婦の副業として「中継ぎ畳表」が盛んに織られた。

モーターによる動力織機で「真座」がつくられるようになったのは昭和14・15年頃かららしいが、普及したのは戦後である。しかし、いま田中野田では、原好幸さんの工場だけになっている。

4) トラクターとコンバイン

戦後は、農業機械も改良され、次第に進んできた。それでも、コンバインが、この地区で使われるようになったのは昭和43年頃で、いまは故人となっている、中尾澄君が、最初ではなかったかと思う。

昭和50年前後、農家でも乗用自動車・貨物自動車を持つようになると、トラクターやコンバインが急速に普及してきた。

コンバインが使われるようになると、稲の収穫作業の「刈り取り・結束・集積・脱穀・集積(稲わら)」が一度に済むことになり、作業がすごく楽で能率的になる。乗用トラクターも仕事を楽にしてくれる。

昔、石油発動機が導入されたとき、こども心に嬉しくて興奮したことが、機械化の進んだ今から思えば恥ずかしくなるくらいである。

なお、現在稲作では、作付けから収穫しての乾燥・扱摺りまで全て機械化していることは周知のとおりである。ただし、その代償として農機具代もますます高み、喜んでばかりはいられないのも事実である。

それにしても、農業は、いうまでもなく自然の恵みをうけて成り立つ。同時に世の中の進歩発展の恩恵もうける。有り難く思わねばならない。また、機械のなかった時代、肉体を酷使して働いた、親たちを含むこの地区の先人の労苦を思うと、頭の下がる思いがする。改めて、「ご苦労さまでした」と申し上げたい。

注1「せんば」は和泉高石の百姓が元禄(1688-1703)のころ発明されたそうである。(宮本常一著「民間層」による)「足踏回転式脱穀機」が登場するのは200年後の大正時代になってからである。(外国で、回転ドラム式の脱穀機が開発されたのは1786年と書物に書いてあるから「人類と機械の歴史」による)この面でも日本はおくれていたことになる。これも鎖国の影響か?)



注1「せんば」は和泉高石の百姓が元禄(1688-1703)のころ発明されたそうである。(宮本常一著「民間層」による)「足踏回転式脱穀機」が登場するのは200年後の大正時代になってからである。(外国で、回転ドラム式の脱穀機が開発されたのは1786年と書物に書いてあるから「人類と機械の歴史」による)この面でも日本はおくれていたことになる。これも鎖国の影響か?)

感謝

○原 一郎さんより香典返しとして、町内会へ金一封を戴きました。

○去る5月16日(日)には田中野田の白寿会、町内会の役員等40名余の方に白髷宮の清掃をして頂きました。

< 会員名簿の変動 >

Table with columns: 氏名, 世帯主, 地名, 地番, 電話, 職業, 備考. Lists members and their details, including names like 平尾 重太郎 and 伴 克己.

記入漏れがございましたら、町内会長までご連絡ください。



編集後記

うとうしい梅雨が続きますが、暑い夏はもうすぐです。もし梅雨がなかったら、うだるような暑さが4か月も続きます。それを考えると、この季節はいい緩衝材かもしれません。あと1月で夏休みも始まります。ご家族そろって、海へ、山へ、いい夏の思い出を残してください。